増え続ける外国人患者の背景にある問題へのアプローチを目指して

埼玉県
医療生協さいたま　埼玉協同病院

発表者　河野友絵
協同研究者　竹本耕造、稲村まゆみ、高橋恵子、田中康子、平沢薫、福庭勲
長澤正隆（北関東医療相談会）、鶴木由美子（難民支援協会）

医療生協さいたま

背景

- 当院の位置する埼玉県川口市とその隣の蕨市には**2000人以上の在日クルド人**を始め、中国人やベトナム人など**約36,000人の外国人**が暮らしている。
- 2016年度に当院を受診した**外国人患者は777人**であり、**無保険者も多く**治療費未収は32件に上る。
- 言葉の問題もあるため、当院での日々の外来診療に少なからず影響をもたらしている。

目的

- 日本国憲法で定められている**「健康で文化的な最低限度の生活を送る権利」**は等しく日本に居住している外国人にも認められるべきだと考える。
- 当院は**無料低額診療**を実施しており、様々な理由で健康へのアクセスが阻害されている彼らに対してもアプローチして健康づくりをサポートしたい。また、この取り組みを通して職員の意識改革にも繋げたい。

方法

無料健康診断の実施

当院を会場とした**無料健康診断**をNPO法人 北関東医療相談会（AMIGOS)と連携して2回に亘って実施した。

第1回　2016年 1月 30日
第2回　2017年 1月 29日

【実施項目】
血液検査、胸部X線、尿検査、身体測定、問診、医師面談、子宮頸がん検査

健康診断にあわせて、弁護士による法律相談、フードバンクによる食糧支援も実施された。

関係機関との協議会開催

今後当院として具体的にどのような活動が出来るのかを2017年8月28日に**協議会を開催**して検討した。

出席者　NPO法人　北関東医療相談会（AMIGOS）
認定NPO法人　難民支援協会

当院　副院長、看護副部長、看護長、助産師、小児科看護師、研修医、社会福祉士

※ 日々患者対応する中で問題意識を持った職員(小児科、産婦人科領域、外来担当医)から自発的に参加希望があった。

結果

	参加人数	国籍	判定結果
第1回	61人 (平均年齢38歳)	14か国 (2名は不明)	D：28人 E：4人 F：1人
第2回	59人 (平均年齢39歳)	15か国	D：14人 E：14人 F：22人

- 埼玉県内在住者8割以上であり、体調悪化を自覚した場所として入国管理局の収容施設を挙げる受診者が10名以上いた。
- 国外でのストレスの多い生活を背景として**精神的な問題**を抱えている受診者も多く、主訴は疼痛、消化器症状、動悸など多岐に亘った。
また、肝臓癌やヘルニアの相談もあった。

問題点を整理

言語： 指差しメディカルカードを受診支援ツールとしてNPOが作成しているが、文字が読めない患者も多い。

経済的問題： 無料低額診療に加え無保険者が利用出来る制度もある。医療機関によって外国人受診の考え方も異なる。

生活習慣： 相互理解が不可欠だが、交流の場は限られている。

求められている役割/果たすべき役割

- NPOの支援は個別受診支援が中心であり、無保険者を受け入れる医療機関へ事案毎に相談している。**ネットワーク作り**が待たれる。
- **生活習慣病**も深刻な問題となっているが背景には**経済的困窮**による食生活の偏りもある。**健康や生活について気軽に相談して交流も図れる場が必要。**

今後の課題

- 増え続ける地域の外国人の健康問題をどう支援するかは当院に限った問題ではない。**自治体を超えた地域の病院や行政とも連携**を取り、対策を講じることが必要とされている。今後も協議会を通して検討を重ねていきたい。
- 異国の地での生活によるストレスに加えて、**経済的困窮も「健康格差」を広げる原因**となっている。生活習慣病の予防実践だけでなく、**安心を得られる場所づくり**を医療生協の組合員とも協力して実現させたい。
- 無料健康診断実施後に**職員の意識**も徐々に変わってきている。院内勉強会や受診サポートパンフレットを作成する企画も立ち上がっているため、こうした取り組みを進めていく。